

みなさんの声をお聞きました

～長久手町多文化共生の地域づくりに関するアンケート～

町では、日本人住民も外国人住民も、ともに安心して快適に暮らせる“多文化共生の地域づくり”を実現するための基礎調査として、多文化共生実態調査を実施しています。

その中で、住民のみなさんの多文化共生に対する意識、多文化共生社会実現に向けた課題や問題点などを把握するため、平成23年1月に、日本人住民、外国人住民、国際交流事業参加者を対象としたアンケート調査を実施しました。

そのアンケート結果の概要をお知らせします。

調査の概要

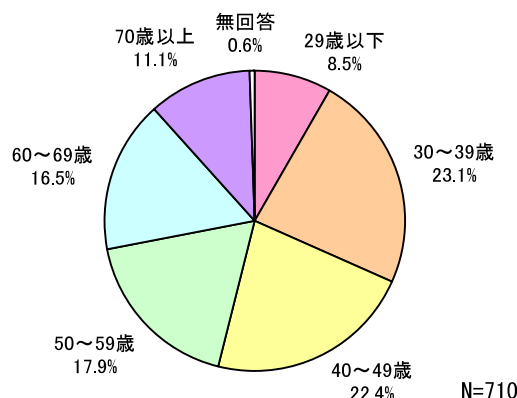
	日本人住民	事業参加者	外国人住民
調査対象	20歳以上の町民から無作為に抽出した1,500人	長久手町姉妹都市友好親善訪問団参加者・ホームステイの受け入れ世帯	20歳以上の外国人登録者（特別永住者を除く）
調査方法	郵送による配布・回収		
調査期間	平成23年1月7日に配布し、1月20日を回答期限として回収		
回収状況	- 配布数 1,500票 - 有効回収数 618票 - 有効回収率 41.2%	- 配布数 200票 - 有効回収数 92票 - 有効回収率 46.0%	- 配布数 651票 - 有効回収数 100票 - 有効回収率 15.4%

回答者の特徴

日本人住民・事業参加者

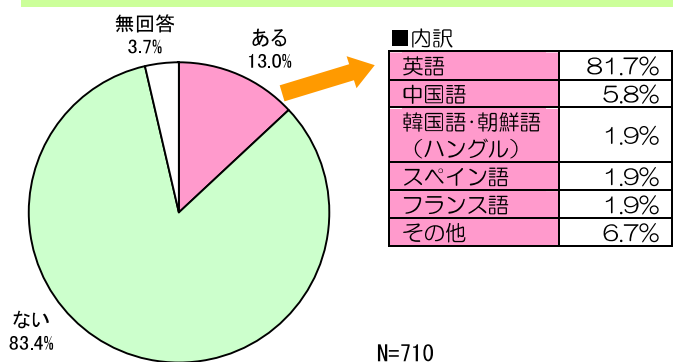
年齢

回答者の年齢は、各年代にわたっています。



外国語の使用

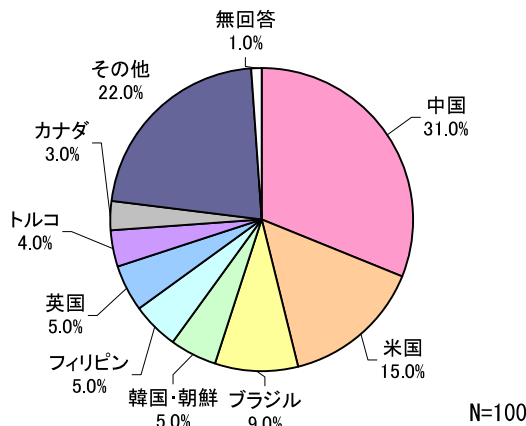
日常生活で不自由なく使える日本語以外の言語がある方が13%となっています。



外国人住民

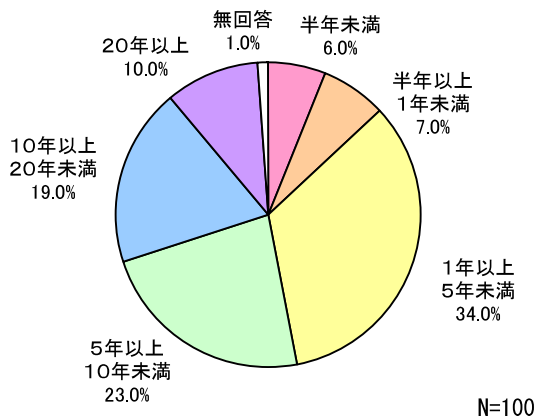
国籍

国籍は21カ国にわたり多様化しています。



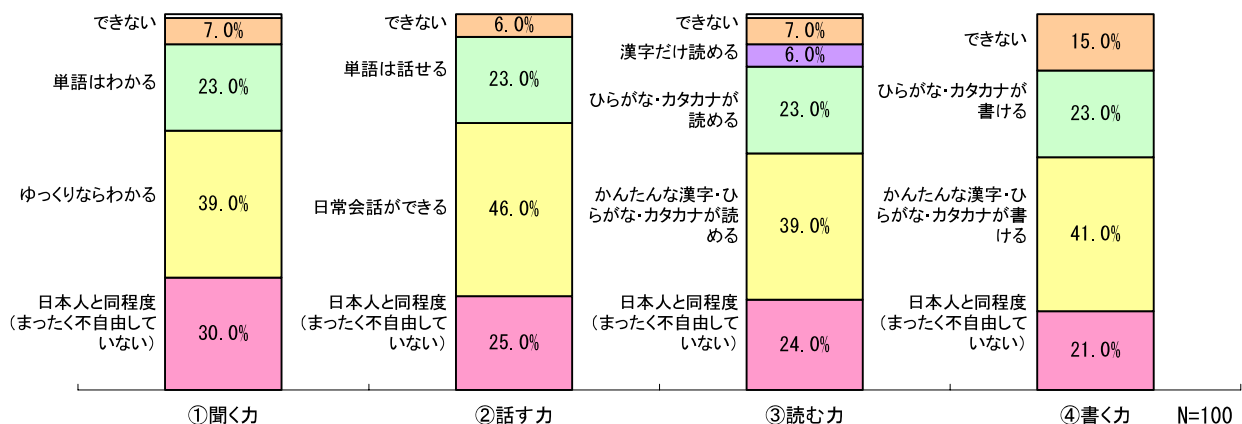
日本での居住年数

5年未満の居住者と5年以上の居住者が、それぞれ半数となっています。



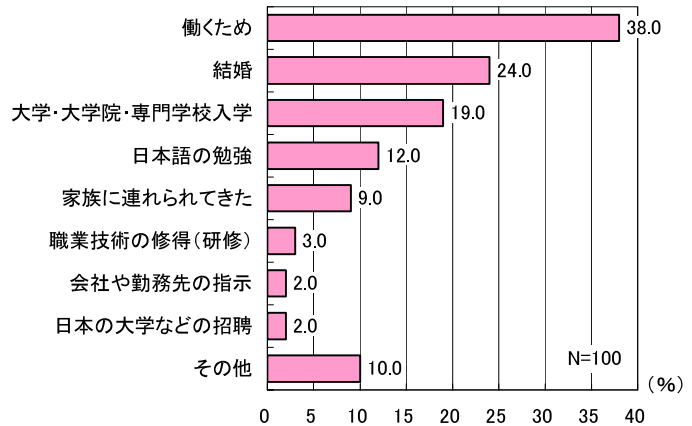
日本語の使用

①聞く、②話す、③読む、④書くのそれぞれの能力については、「日本人と同程度でまったく不自由していない」が20～30%であり、一方、「できない」が6～15%程度となっています。



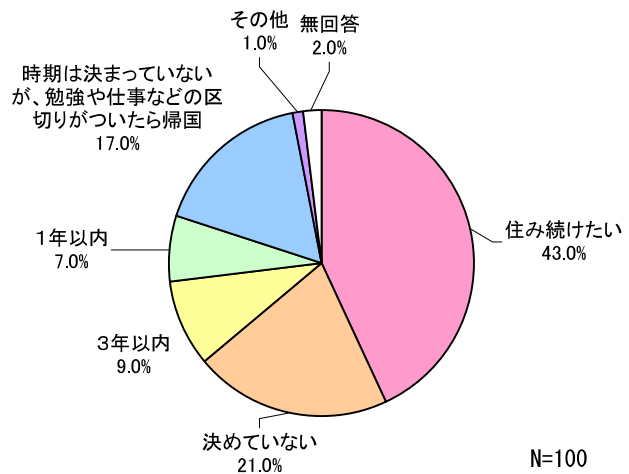
来日目的

「働くため」や「結婚」、「大学などへの入学」を目的に来日する方が多くなっています。



今後の日本での居住予定

今後も日本に「住み続けたい」と考えている方が43%となっています。



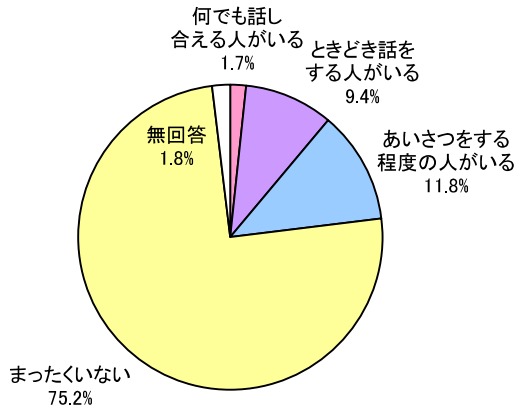
● 日常での日本人住民と外国人住民の関わりについて

交流の程度

設問 あなたは、長久手町内でご家族以外の日本人（外国人）と交流することはありますか？

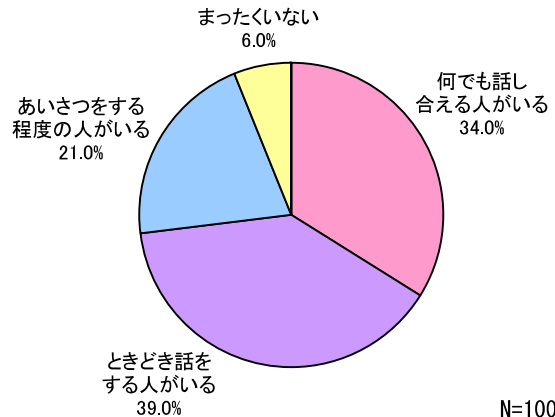
外国人住民の9割以上が日本人住民と何らかの交流をもっていますが、日本人住民では、外国人住民と何らかの交流をもっている方は2割程度となっています。

日本人住民・事業参加者



N=710

外国人住民



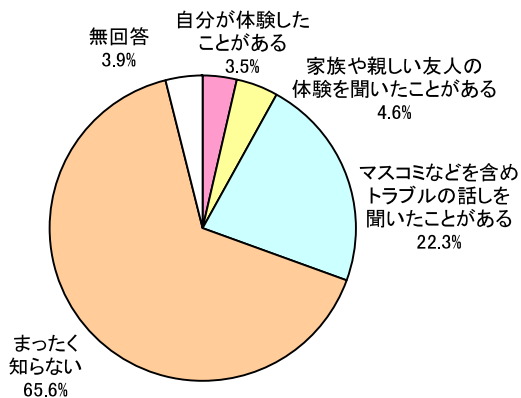
N=100

日常生活でのトラブル

設問 あなたは、日常生活で日本人（外国人住民）との間でトラブルを体験したことがありますか？または、ご自分以外の方のトラブルについて聞いたことがありますか？

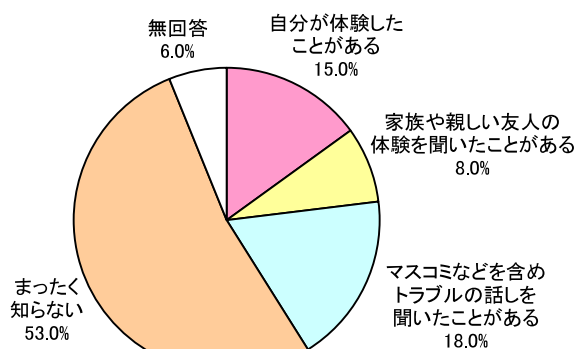
外国人住民では4割、日本人住民の3割が、日常生活において、日本人住民と外国人住民との間の何らかのトラブルを体験または聞いたことがあると回答しています。

日本人住民・事業参加者



N=710

外国人住民



N=100

トラブルの具体的な内容

日本人住民が体験したトラブルの例	外国人住民が体験したトラブルの例
○ ゴミの出し方のマナーが悪い。 ○ 大きな音で音楽を聞かれてうるさかった。 ○ 生活習慣の違いからくる誤解がある。 ○ 電車、バス車内での乗車マナーが悪い。 ○ お祭りで喧嘩になったことがある。 ○ 英会話を習っていて月謝でトラブル。 など	○ 近所の人に嫌がらせをされた。 ○ 地下鉄で痴漢にあった。 ○ 日本語が上手ではないので美容院で困った。 ○ 自分の意見をはっきり言ったら注意された。 ○ 失礼な態度で話されたことがあった。 ○ 仕事上で、考え方のずれがある。 など

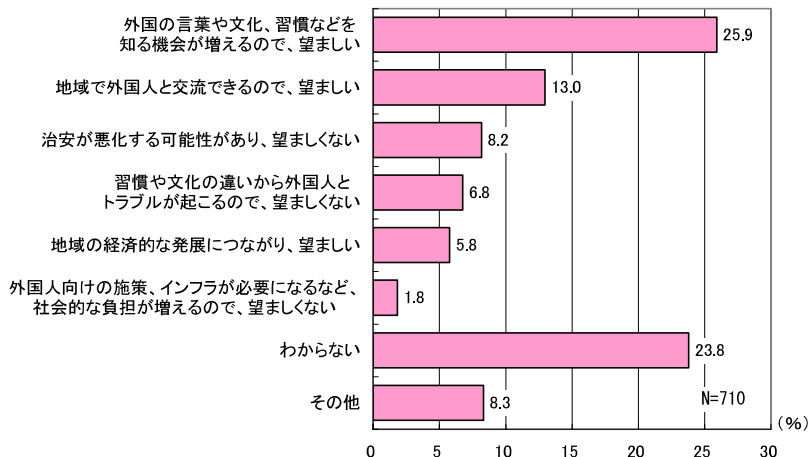
日本人住民の意識

日本人住民・事業参加者

外国人住民が増えることについて

設問 あなたは、地域に外国人住民が増えていくことをどう思いますか？

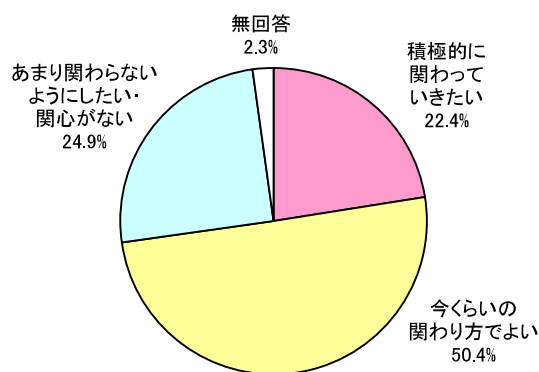
「外国の言葉や文化、習慣などを知る機会が増える」や「地域で外国人と交流できる」など、地域に外国人住民が増えることを望ましいと考える方が多くなっています。



外国人住民との今後の関わり方

設問 あなたご自身は、外国人住民とこれからどのように関わっていきたいですか？

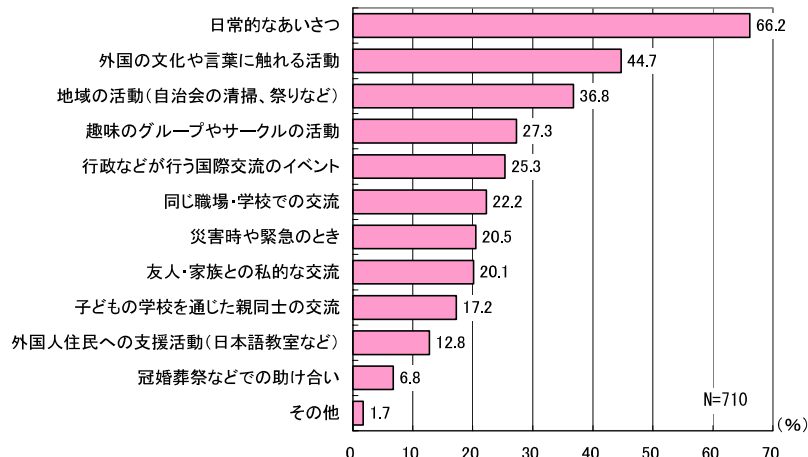
「積極的に関わっていきたい」は22%であり、「今くらいの関わり方でよい」と考える方が多くなっています。



外国人住民と関わっていきたい機会

設問 どのような機会を通して外国人住民と関わりたいですか？

「日常的なあいさつ」や「外国の文化や言葉に触れる活動」、「地域の活動」、「趣味のグループやサークルの活動」などを通して外国人と関わっていきたいと考える方が多くなっています。



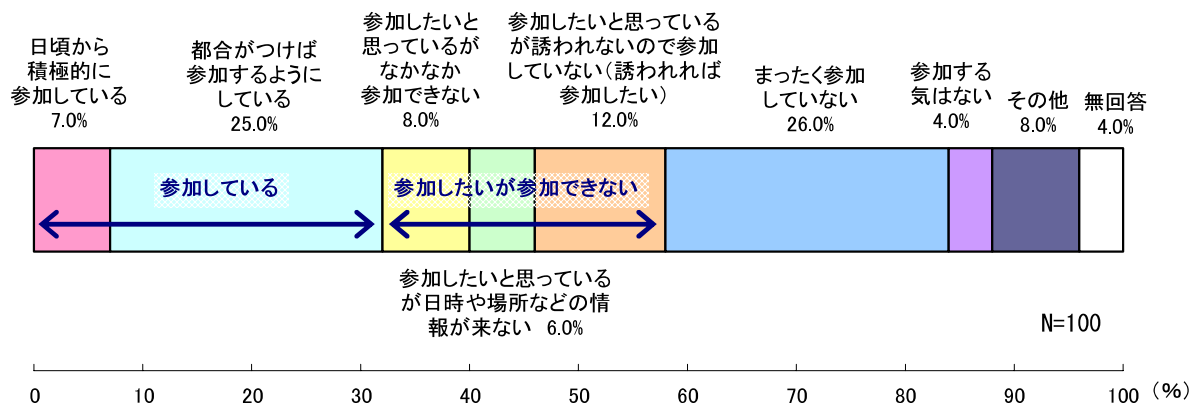
外国人住民の意識・生活実態

外国人住民

地域活動への参加

設問 あなたは、町内の清掃作業やお祭り、自治会など、地域の活動に参加していますか？

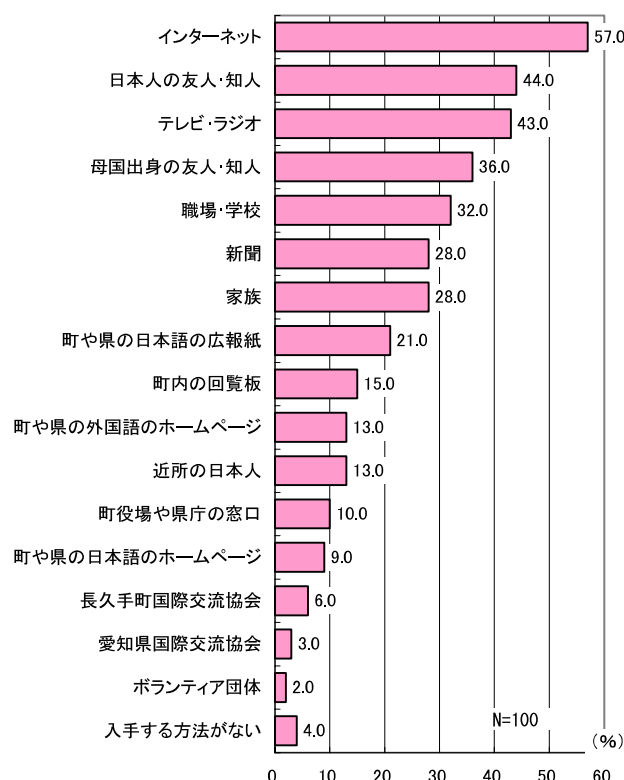
地域の活動に参加している外国人住民は32%であり、参加したいと思っても参加できない方も26%にのびります。



生活に必要な情報の入手手段

設問 あなたは、生活に必要な情報をどこから得ていますか？

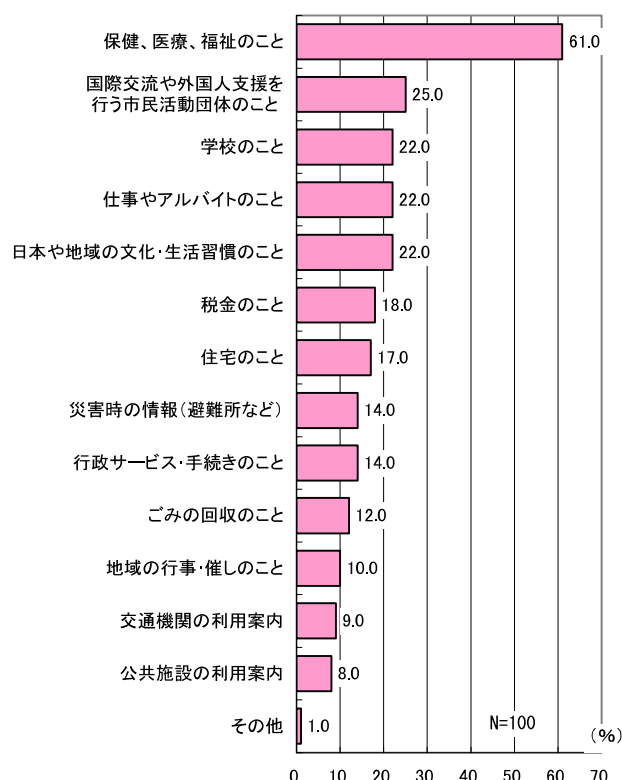
インターネットが最も多く、友人・知人、テレビ・ラジオ、職場・学校なども多くなっています。



生活する上で特に必要な情報

設問 あなたが生活するうえで必要な情報は何か？

「保健、医療、福祉」に関する情報を必要とする方が最も多くなっています。



外国人住民

日常生活での不安

【自由記述】 日本人の行動や社会システム、法律や交通ルールなど、日常生活において、あなたにとって便利なことや良かったこと、または、不安なことや困っていること、理解できないことや戸惑っていることなどがあれば、お書きください。

「法律や年金などの制度がよく分からない、不安である」という意見が最も多く、次いで、普段地域の日本人と交流する機会がないなど、「地域社会とのつながり」の面で不安を感じている方が多くなっています。

一方、「不安・困難は特にない」という回答は39件あり、約4割の方は不安なことや困っていることもなく生活しています。

具体的な内容

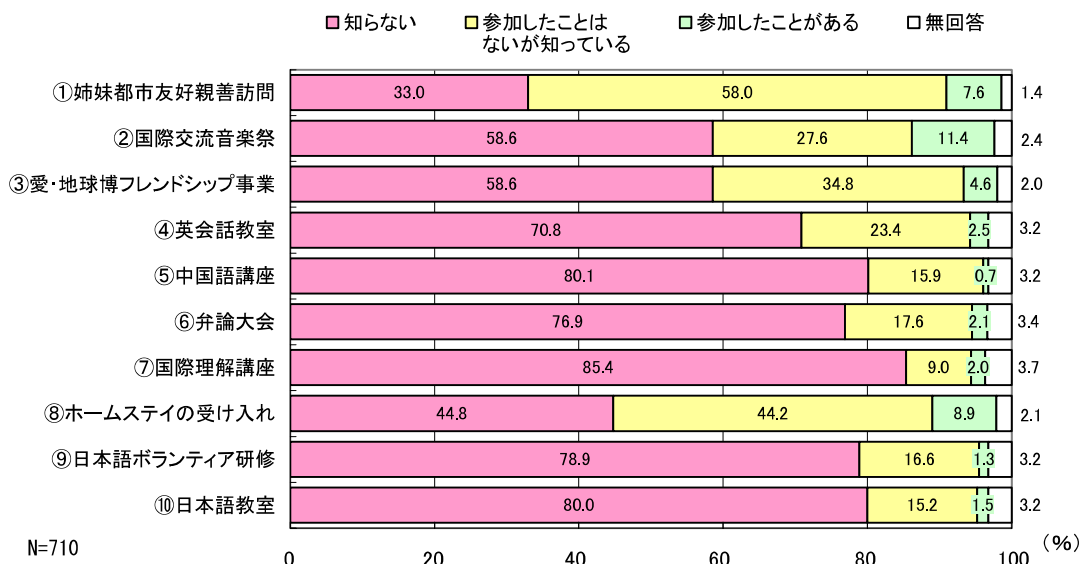
区分	主な意見
地域社会とのつながりについて	○ 時々、間違えた言葉を使って話し、日本人を怒らせてしまう。言われた事を誤解して受け止めてしまうこともある。コミュニケーションは難しい。だから人と話をするのが怖い。でも、話したいし、寂しい。 ○ 長久手町は、美しくて、きれいで外国人にとっても安全な町ですが、外国人家族にとってはあまりイベントもなく面白くないところです。 ○ 日本人は非常に恥ずかしがりやで、友人をつくるのがむずかしい。 ○ 地域での活動に参加したことはなく、日本人との交流機会はあまりないです。
情報の多言語化について	○ 役場の案内やパンフレット、申請用紙、広報は英語や多言語化すべき。 ○ チラシやレストランのメニューなどは、日本語表記だけで英語表記がない。
多文化共生について	○ まず日本人と外国人の間での相互理解を深めるべきだと思う。 ○ 外国人を学校に招いて、その国や文化について、子どもに教えるといいと思う。
役場などの相談窓口について	○ 役場で「お助け課」や「ヘルプセンター」のようなものを作ってもらえるなら、簡単な問い合わせもすることができる。
日本語の学習について	○ 日本語の授業を受けたいけれど、長久手町では週末に1回のみ。平日に学習できるとよい。
子育てについて	○ 外国人のママたちだけの意見交換会のようなものは開催されないだろうか。同じように子育てで悩んでいる外国人のママはいると思う。
法律や年金、社会システムについて	○ 日本で定年を迎えることになったら、ちゃんと年金をもらえるのか、外国人の福祉、医療がどうなっているのか不安です。 ○ 日本のルールとマナーはとても多くて、今は全部覚えていないため、とてもストレスを感じます。 ○ 国民健康保険はちょっと高いと思います。 ○ 夫の住民票に自分が載っていないこと不満がです。再入国許可を取りにわざわざ入管まで行かないといけないことが不便です。
その他	○ 外国人が暮らすために必要なのは、尊重と平等だと思います。 ○ 日本文化になじむことは簡単ではなく、混乱することも多い。
不安・困難はない	○ 問題もなく、毎日楽しく暮らせています。 ○ 長久手町はとても住みやすい町です。

ながくてちょう こくさいこうりゅう たぶん かきょうせいせさく 長久手町の国際交流・多文化共生施策について

にほんじんじゅうみん じぎょうさんかしゃ 日本人住民・事業参加者

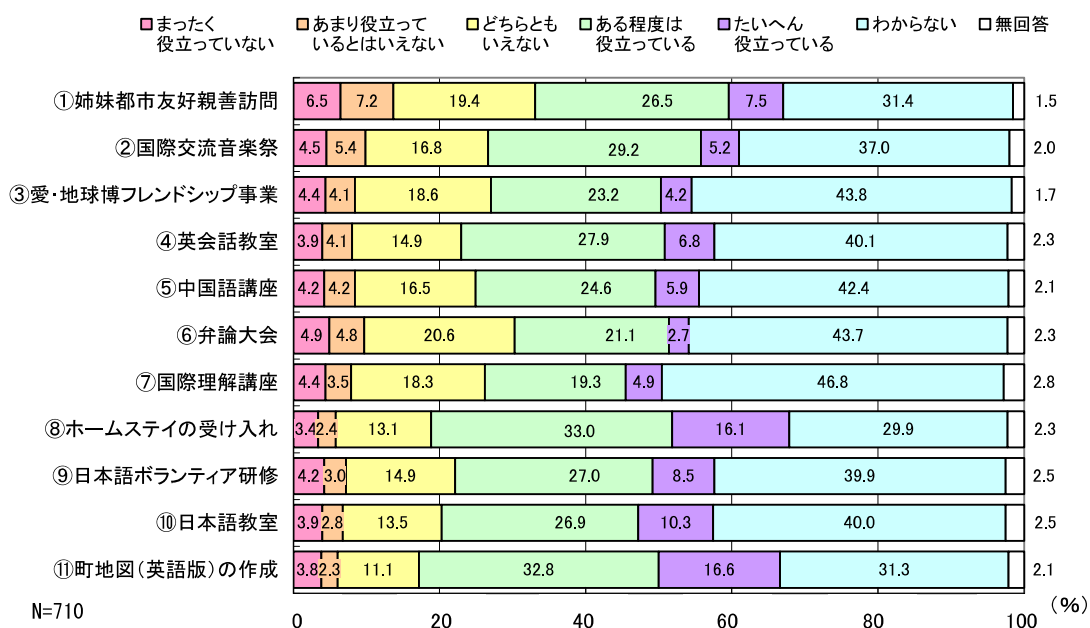
せさく にんしきど 施策の認識度

「①ベルギー・ワテールロー市への姉妹都市友好親善訪問」と「⑧ホームステイの受け入れ」については、比較的認識は高くなっていますが、その他は全体的に認識は低くなっています。



せさく たい まんぞくど 施策に対する満足度

全体的に「わからない」が多くなっていますが、「わからない」や「無回答」を除くと、9事業に対して5割以上が「たいへん役立っている」または「ある程度は役立っている」と回答しており、国際交流や多文化共生に関する取り組みを認識している方には、役立っていると考えられています。



国際交流事業の参加者の評価

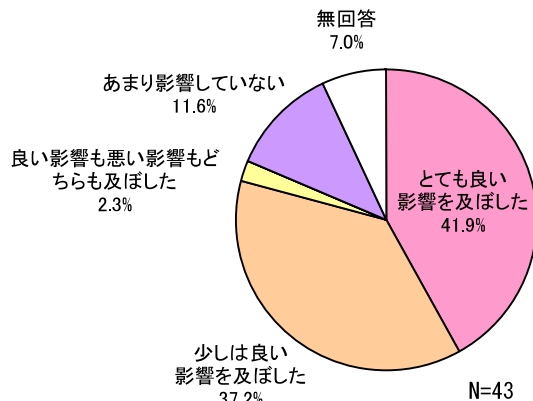
事業参加者

事業に参加したことの影響

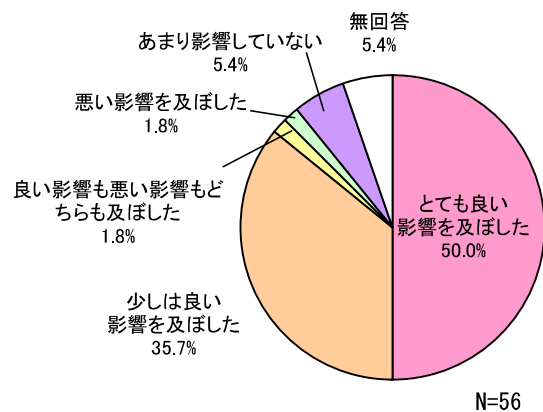
設問 ワーテルロー市への親善訪問やホームステイの受け入れに参加したことは、あなたのその後の進路の選択や生活にどのような影響を及ぼしましたか？

どちらの事業においても、事業参加者の大部分が良い影響を及ぼしたと評価しています。

■ワーテルロー市への親善訪問事業参加者



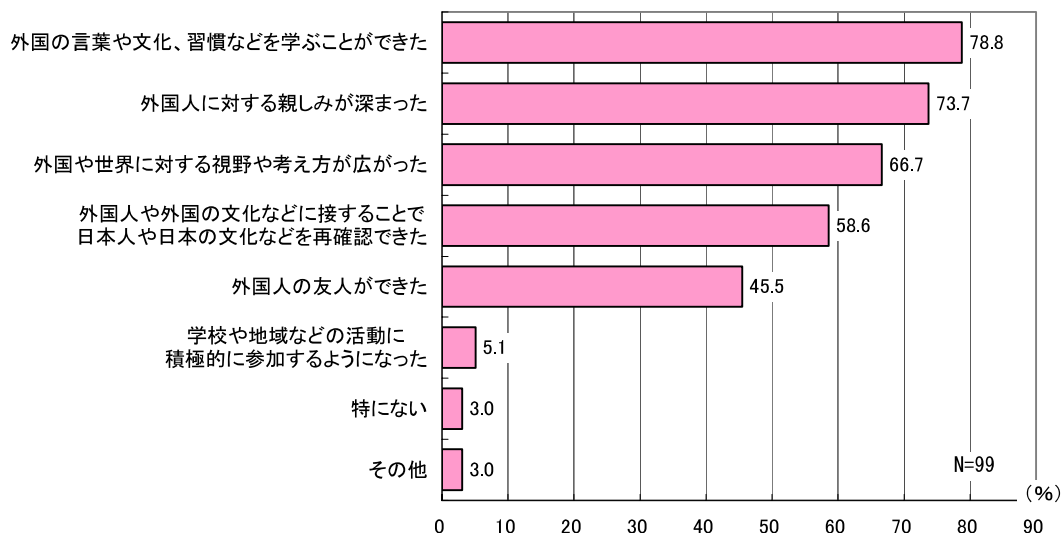
■ホームステイの受け入れ事業参加者



事業に参加して良かったこと

設問 ワーテルロー市への親善訪問やホームステイの受け入れに参加して、良かったと思うことはありますか？

「外国や世界に対する視野や考え方が広がった」、「外国の言葉や文化、習慣などを学ぶことができた」、「外国人に対する親しみが深まった」、「外国人や外国の文化などに接することで日本人や日本の文化などを再確認できた」などが、良かったこととして挙げられています。



その他の詳しい結果については、「長久手町多文化共生実態調査 調査報告書」をご覧ください。報告書は、長久手町役場まちづくり協働課、役場西庁舎1階行政情報コーナーでご覧になれます。

【問合せ】長久手町役場 まちづくり推進部 まちづくり協働課 TEL0561-56-0602